

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第25期・第6回議事録

令和4年4月6日
作成 山本 章夫

1. 日時 令和4年4月6日（水）15:00～17:00
2. 会場 遠隔会議 オンライン開催
3. 出席者 松岡委員長、越塚副委員長、小野、関村、矢川、澤田、白鳥、宮野、山本、（佐倉、吉村、中村欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 社会のための継続的イノベーション検討小委員会第5回議事録（案）
 - 資料2 社会のための継続的イノベーション報告書案(山本担当分)
 - 資料3 社会のための継続的イノベーション報告案
5. 議事
 - 1) 議事録確認（資料1）
 - ◎議事録を確認した。
 - ・内容について意見はなく、議事録を確認した。
 - 2) 社会のための継続的イノベーション報告書案(山本担当分)（資料2）についての議論
 - ◎資料2について意見交換を行った。以下に内容を示す。
 - ・主要な論旨として、技術と社会の相互作用を問題としたことは適切。学会会議としてこの議論をしていく場合、従来は専門家/一般人というカテゴリー分けで議論してきたことに対する振り返りが必要である。
 - ・SMRの課題についての記載は、従来型の開発における課題になっている。社会ニーズからスタートし、社会実装を実現するためにはイノベーションが必要という書き方になるのではないか。
 - ・存在論的リスク観は、客観的に評価出来るものを対象にしている。構築論的リスク観は、むしろ現在は明確化されていないどのようなリスクがあるかを議論していくもの。明確化されていないリスクの中に社会の不安が存在するということがあり得る。構築論的リスク観は、どういうリスクがあるのか、から議論するものである。
 - ・存在論的リスク観と構築論的リスク観のリスクを同一とみるのは良くない。これらは言葉は同じであるが、性質の異なっているものと理解した方が良い。存在論的リスク観に基づくリスクを減らしていくとなるが、構築論的リスク観に基づくリスクを発生させている問題そのものを解消する、という形になるのではないか。すなわち、リスクの種類が違うのではないか。この議論と、IRIDM や ISiD をどのように関連

付けるかは重要な論点。

◎引き続き、議論の方向性について検討を続ける。本日の意見交換を踏まえて、内容のアップデートを行う。

3) 社会のための継続的イノベーション報告案（資料3）についての議論

◎資料3について意見交換を行った。以下に内容を示す。

- ・3.1節で取り上げられたニーズドリブン、知識基盤の妥当性、構造的課題の三つの論点を3.2, 3.3, 3.4節にも展開することを想定している。
- ・3.1節～3.4節について、それぞれなぜこれらを題材として取り上げるのか、追記が必要ではないか。
- ・再生可能エネルギー、巨大火山噴火、Covid-19での論点について、もう少し議論して明確化してはどうか。
- ・この文書で扱うのは、技術-社会のシステムのイノベーションというのが基軸。原子力については、SMRが一つの解、再生可能エネルギーとしては、EIMYが一つの解ではないか。
- ・地球温暖化、CNについては、エネルギーから見た論点を議論するのか。市場を考えると、ESG投資など、市場の考え方/制度も重要となるはず。
- ・巨大火山噴火については、もう少し論点の検討が必要ではないか。ニーズドリブン/知識基盤について議論できるか。
- ・再生可能エネルギーについては、太陽光など、どれか一つの電源のみを議論するのではなく、いろいろな再生可能エネルギーを組み合わせるシステムとして継続的にイノベーションを起こしていくのか、という議論をしても良いではないか。
- ・3.4節については、リスクの議論の中で取り上げていくと良いのではないか。社会の課題を、リスクを通じて個々人が共有するという意味での課題として理解することは出来る。構築的リスク観の観点でも良いのではないか。リスク学的に見たCovid-19への対処方法などは、リスク学会で議論されている。構築論的リスク観で整理する、というやり方もありそう。

◎引き続き、議論の方向性について検討を続ける。本日の意見交換を踏まえて、内容の整理と更新を行う。

4) 今後の進め方について

◎意見交換の内容に基づき、内容の整理と検討を進める。

◎次回は委員長が別途メールで日程を調整する。

以上